

講義名	経営管理論B（経営学科学科2年生+3年生以上）			授業形態	
担当教員	柿沼 英樹	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

**主題と概要**

経営管理の大きな全体像を学んできた経営管理論Aを発展させて、経営管理のもう少し細部の様相を捉えることに取り組む。具体的には、経営管理に関する応用的な論点（例：フォロワーシップ、組織間関係、国際化）や、近年注目が集まりつつあるトピック（例：プラットフォーム企業、サービス・マネジメント、CSVやSDGs）を取り扱い、これらについて概説する。また、企業事例を取り上げながら、学んだことが実際にどう使われているのかについても理解を深める。

**到達目標**

- (1) ビジネス社会で直面する諸課題に、経営管理論の基礎知識を応用できるようになる。
- (2) 企業、経営者、ビジネスパーソンに関する必須情報と教養（ビジネス・リベラルアーツ）を修得できる。

**提出課題**

- 毎回の授業において、その日の内容に関する小テストを実施する。
- 授業の内容と関連つけた論述を求めるレポート課題を、2～3回程度提示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

- 授業回ごとの小テストについては、授業内にて解答の提示と補足解説を行う。オンデマンド受講の場合は、提出締切後に別途、解答の提示と補足解説を行う。
- レポート課題については、締切後の授業にて全体向けにフィードバックを行う。

**評価の基準**

- 授業回ごとの小テスト20%、レポート課題20%、定期試験60%（詳細については講義内で提示する）
- 日本への未入国者、医師から通字を控えるよう推奨されている学生など、対面での定期試験が実施できない学生については、「授業回ごとの小テスト40%、レポート課題60%」で評価する予定である。
- 6回以上の講義欠席は、自動的に「放棄」として評価を確定する。小テスト課題への回答提出出席とみなしますので、提出漏れがないよう注意すること。（ 登学停止や公欠に該当する場合は、別途配慮する）

**履修にあたっての注意・助言他**

- 柿沼が担当する経営管理論AおよびBは、A（前期）が基本的内容、B（後期）が応用的内容という大きな区別をもって設計されている。
- しかし、経営管理論の履修にあたって、経営管理論Aの履修・単位修得を必須条件とはしない。
- オンデマンドでの開講となる場合は、Microsoft Teams を利用する予定である。詳細は、別途案内する。

**教科書**

.使用しない。

**参考図書**

.なし。

**その他**

<講義資料>  
授業回ごとに YUKA Portal にアップロードするので、自分で確認すること。  
<参考文献>  
各授業回において適宜提示する。

**授業計画**

- 第1回 経営管理論Bで学ぶこと：講義の全体像や進め方、評価方法など
  - 第2回 新たなリーダーシップ像：エシカル、オーセンティック、シェアード
  - 第3回 フォロワーシップ：フォロワーからみたらリーダーシップ、フォロワーシップ行動
  - 第4回 組織と個人の意思決定：意思決定モデル、バイアスとヒューリスティック、グループシンク
  - 第5回 チーム・集団：グループダイナミクス、コミュニケーション
  - 第6回 コンフリクト・マネジメント：組織内コンフリクトの源泉、コンフリクトの解消策
  - 第7回 組織学習：個人的な学びと組織的な学び、知識創造
  - 第8回 組織間関係：M&A、戦略的提携、ネットワーク組織
  - 第9回 ベンチャー：ベンチャー企業の特徴、アントレプレナーとアントレプレナーシップ
  - 第10回 プラットフォーム企業：ビジネス・エコシステム、フリーミアム、ネットワーク効果
  - 第11回 国際化のマネジメント：国際化の動機、多国籍企業の特徴、日本企業の国際展開
  - 第12回 サービス・マネジメント：サービスの特性、顧客志向、価値共創
  - 第13回 企業の社会的責任：CSR、CSV、SDGs
  - 第14回 経営管理のそとなる課題：パラドックスやジレンマのマネジメント、組織の視点と個人の視点
  - 第15回 全体のまとめと補足解説：経営管理論Bの全体像の再整理
- 定期試験

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

<予習>  
講義資料を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと。30分程度。  
<復習>  
講義資料には概略のみを記載しているので、参考文献を必要に応じて参照しながら詳細を補完すること。  
また、各種メディアでの企業経営に関する報道に触れ、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。合わせて90分程度。  
これらのほか、レポート課題に関する取り組みに合わせて30時間程度を要する。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

「企業経営や組織、業界動向にかかわる、より現代的な知識・理論の習得」と、「それら知識・理論を使った現状分析の実施」を達成するための科目である。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

- 小テスト課題やレポート課題は、respon などのオンラインツールを活用して実施する。
- 授業内での発言（またはオンラインツールへの書き込み）を求めることがある。積極的な授業参加を期待する。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**